

## 提案に至る背景

コロナ禍でより顕著となった職場でのメンタルヘルスケア問題の解決、そして経済産業省の健康経営推進⇒これを実質的な効果をもってして実現する。

## 実証実験の目的

AI等の技術を活用したメンタルヘルスケアシステムで精神状態を維持向上し、職場で孤独に悩む人がゼロである社会を実現する。

## 実証実験の概要

### 1 職場で孤独に悩む人がゼロである社会の実現

自動で一人一人の性格傾向などの個人モデルを推定し、日々メンタルをチェックする中で、自動で一人一人に合ったメンタル改善策を提示するシステム及び組織内の信頼関係を促進するシステムを活用する。これにより、働く人が一人一人より生き生きと働け、精神疾患等に陥る人をより少なくしていく。最終的には、職場で孤独に悩む人がゼロである社会を目指す。

### 2 メンタルヘルスケア領域のICTによるSociety5.0の実現に貢献

サイバー空間における個々人のパーソナルモデル推定と改善策の提示、及び、そこにおける、人と人のコミュニケーションの促進によって、現実世界を生きる人々が精神疾患になることなく、より生き生きと働けるようにし、その結果心理的安全性の担保による生産性の向上を達成する。この点において、メンタルヘルスケアの領域のICTによる Society5.0の実現の一側面を担う。

## 検証したい内容

メンタルヘルスケアシステムを様々な業種、職種で1～3ヶ月間試験導入していただき、アンケートなどによるフィードバックに基づく効果確認を行う。

## 市が行う支援内容

- ・メンタルヘルスケアシステムの試験導入先の紹介・調整
- ・同システムのつくば市役所内での試験導入・フィードバック
- ・その他市が必要と認めるもの

## 期待される効果・実現する未来社会

アスリートのパフォーマンス維持のようにサポートするオートメーションシステムで、一人一人の働く人にとって、健康が維持向上できパフォーマンスを向上させられる社会を目指す。心理的安全性を担保し、一人一人の知力体力をフルに活かせるようにすることで、日本の生産性を1.5倍～2倍にすることを目指す。